

学 内 往 来

2018年度は早くも上智大学の創立105周年日、麹町大通りに面したソフィアタワーや広々としたゲート（北門）はすっかり地域になじんできたようです。

2018年度の「上智大学社会福祉研究・大塚晃教授退職記念号」WEB版をお届けします。大塚先生には11年間本学科のためにご尽力いただきました。あらためてお礼申し上げます。

今年度より障害者福祉を専門とする笠原千絵准教授を新たにお迎えしました。笠原先生は本学の卒業生でもあり、知的障害者支援をテーマに研究しておられます。フレッシュな風を本学科にもたらしてくれることを期待します。

今年度の学部卒業生は58名、大学院博士前期課程修了者は9名でした。大学院修了者9名のうち4名は仕事をしながら大学院で学び、長期履修制度を利用した人たちです。実践しながら研究をという人は今後増えてくるものと思われます。本号では修士論文をもとにした原稿を2本掲載しています。

現在上智大学は全学あげてグローバル教育を推進しており、上智から海外に留学した学生は1,000人を超え、外国人学生の国籍は85カ国に及びます（2017年度データ）。社会福祉学科においても中国、韓国、ミャンマーからの留学生が学んでいます。また、今年度は国連のユースボランティアに難関を突破して選ばれ、ヨルダンで活動した学生が出ました。ユニセフ中東・北アフリカ地域オフィスで5か月間、英語を駆使して教育部門での広報とknowledge managementに従事したそうです。中東の空気を吸って多くの人々と交わってきた経験を語る、その学生の顔は実に生き生きとしていて頼もしく思えました。

キャンパスでの国際交流はもちろんですが、より多くの学生が広く世界に踏み出し、グローバルに考え行動するとはどういうことか実感してほしいと思います。

特記すべきこととして、クルトゥルハイムでの学科の卒業ミサを5年ぶりに再開しました。小さなミサでしたが、神学部の瀬本神父様、カトリックセンターや上智聖歌隊の協力を得て、心温まるミサとなりました。上智が大事にしているものをこうした形で伝えていくことができればと思っています。

編集責任 伊藤 富士江（社会福祉学科教授）